

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400266		
法人名	介護センターななくさ株式会社		
事業所名	グループホームななくさ伊勢崎美茂呂		
所在地	〒372-0037 群馬県伊勢崎市美茂呂町3973-3		
自己評価作成日	令和3年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和3年10月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちよく生活して頂けるよう季節ごとに空間を演出している。 ・塗り絵やパズルを好む利用者様が多いため、種類を多く揃えている。 ・利用者の尊厳を尊重しながら支援している。 ・配食サービスを利用しているので、食事のメニューが充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は住宅街の一角にあり、近くには商店が数件あり散歩の時は挨拶や、買い物を通して交流を持てる環境にある。「身体拘束をしないケア」の実践では、毎月拘束について勉強会を行いながら、拘束の確認と拘束によるリスク等についての話し合いと情報の共有を図っている。毎日、午前午後の時間を活用して、「しりとりにゲーム」を交えての脳トレトレーニングとリハビリ体操を行い、日々QOL向上と生活の変化を目指している。コロナ禍の状況では、どの施設においても面会制限があるなか、事業所では終末期の利用者を思いやる気持ちと、家族の絆を大切に、手洗い・マスクの使用を徹底した感染対策を行いながら流動的に面会を緩和し、終末期には居室で利用者と家族と一緒に過ごす時間を大切に、利用者・家族と寄り添うケアを大切にしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員との話し合いのもと、理念をつくり共有している。また、それを玄関に掲示し、来所者にも知って頂けるようにしている。	理念は、職員と話し合いのもと作成し、事業所内の見やすいところに掲示して共有している。家庭的な雰囲気大切に、お茶なども定時ではなく、時間問わず自由に提供するなど、その人らしい生活実現に向けて臨機応変な支援に繋げている。	職員が理念の言葉の意味を理解し、共有できる機会づくりを検討することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して習作展へ作品を出品したり、近所の商店を利用したり、交流を図っている。また、散歩の際、近所の方と挨拶を交わしている。	自治会に加入し、コロナ禍の前は地域事業に利用者の作品出展や、納涼祭に参加するなど、近隣とは日常的に交流していた。現在でも散歩などの際は、日常的に声をかけ交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来た方や問い合わせ等で相談があれば対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、ご家族様・区長・民生委員・市職員に参加して頂き、状況報告や課題を相談し、意見等を伺いサービス向上に努めている。	コロナ禍で会議は中断しているが、利用者の状況や、ヒヤリハットの報告などを会議の資料として、家族に配布している。区長をはじめ地域の協力が、サービス向上に役立っていることを実感している。今後も開催に際しては、家族の参加への働きかけを行う予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の空き情報を毎月報告して。介護保険課や包括支援センターなどに出向いた際、施設の状況や取り組んでいる内容等を報告し協力関係を築けるよう努める。	事故報告書の件や分からないことは、頻繁に介護保険課に相談に出向き、情報交換しながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成し、勉強会を定期的に行い拘束をしないケアに取り組んでいる。	家族はリハビリ場面の見学の機会もあり、時には訪問看護師の指導も受けている。月1回の職員会議では、勉強会を行い、拘束の意味やリスクについて確認している。玄関の施錠は死角対策も兼ねており、職員全員が鍵を所持し利用者の状況で常に開錠出来るケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内会議等で、虐待の事例を取り上げ、注意を促し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等の参加を促し、制度のついて学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を読みながら説明し、理解・納得して頂いてから契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱設置している。 家族来所時に近状報告し、ご意見要望を伺うようにしている。	ケア内容や衣類の買い替えなどは、家族に連絡を入れながら、承諾を得て実践している。家族よりトイレが狭いなどの意見はあるが、今後、建物全体のリフォーム計画があり、改善の旨を伝えている。	運営に関して、具体的に家族に投げかけて、意見の集約ができるよう検討することを、期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、職員からの意見や提案を受け、業務改善に取り組んでいる。	30分～1時間、月に1回職員会議を持ち、利用者のケアがマンネリ化しないように情報を共有している。また、日常ケアを行っている中で、問題や気になることなどを吸い上げている。職員からトイレが狭いのでドアの開閉が困難の意見があり、防炎カーテンに変更するなど、意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	採用時、勤務に関する要望を聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受けられるよう整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に所属し、他の事業所との交流や研修の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の話をよく聞き、安心して過ごして頂けるよう関りを多く持ち、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話をよく聞き、要望があればサービスに導入し信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前後、ご本人様の状況等をよく見極め、入所が妥当か他のサービス利用もいいのか慎重に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲で日常生活における家事等の手伝いを職員と一緒にさせて頂き、共に生活する環境を整えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子を伝えたり、面会を促し現状を知って頂き、より良い関係が築いて行けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会を促したり、ご家族様と外出して頂いたりして、馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。	コロナ禍になって交流は少ないがデイサービスが隣接しているので、「デイサービスに友人が来るので会いたい」と希望がある時は、その支援に努めている。来訪の希望者がある時は家族に相談するなど、馴染みの絆を大切にした支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人ひとりの性格や状況など配慮しながら、職員が間に入り良好な関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもこれまでの関係性を大切にし、必要に応じて相談や支援に努めて行く方針である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時のアセスメントや日常会話等から要望を把握し希望に添えるように支援している。	ケアプランをもとに、思いや意向の把握とその実践に取り組んでいるが、殆どの利用者が意思疎通が可能なので、様子を見ながら職員が居室で本音を引き出すような機会も持っている。難聴の方は会話が少ないので、声かけをして思いを確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントや日常会話、面会時家族から話を聞いて生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態や会話など気付いたことを個別に記録し、日々の様子や状態の変化など把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態や会話から気付いたことなど会議で話し合い家族の意見なども参考に3ヶ月毎介護計画を作成している。	1週間に1回ケアマネジャーが来訪し、カンファレンスの中でスタッフの意見を聴取し、記録の情報をもとに介護計画を立案している。ケアマネジャーは介護計画書の「サービス内容」の立案も各種の記録を確認しながら、3ヶ月に1回の見直しを行っている。	各種記録が介護計画書と結びつく記載となるよう、一貫性のある記載を検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態や会話などから気付いたことを個別に記録して職員間で情報を共有している。また、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出支援や通院支援などニーズに合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の学校行事の見学や警察・消防署等への協力要請を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の支援がある方はかかりつけ医に受診しているが、殆どの方が往診の先生にお願いしている。医師と連携を図り、家族に連絡して適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前は、個々の利用者がかかりつけ医に受診していたが、入居後は全員事業所の協力医の往診を受けている。看護師は主に夜勤をしているが、急変時は看護師が職員として在籍しているので、安心して医療が受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、日頃の健康管理、緊急時の対応を依頼している。医療機関への連絡も行って頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関及び訪問看護と連携をとり、早期退院や退院後の治療を行えるように体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	週末期の指針を重要事項説明書に記載しており、契約時に説明し、状況判断しながら家族と話し合いを行い、医師や訪問看護の方と連携しながら事業所で支援に取り組んでいる。	入居後の急変を予測し、終末期のケアを家族に確認している。医師の「特別指示書」で看護師が2週間継続して訪問可能となっている。家族には病院とは異なり、事業所でできることを伝え、終末期に達した時は、訪問看護師により点滴などの治療的ケアにもチームを組んで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置マニュアルを作成し、社内会議等で確認を行っている。また、訪問看護と連携し緊急時の対応を依頼している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼夜それぞれの設定で避難訓練を実施。1回は消防署の立ち合いをお願いしている。近くに住んでいる家族の協力はあるもの地域住民の協力は得られていない。運営推進会議等で呼びかけは行い協力体制を築けるよう努力はしている。	年2回避難訓練を実施し、春は自主訓練、秋は消防署立ち合いの夜間想定を実施している。住宅街に立地しているため、避難場所の確保が難しい。区長の協力はあがるが、更に地域の方の協力を得るため、今後は開催協力方のチラシの配布を検討している。	災害時は地域住民の協力が必須であり、そのための協力依頼と、利用者が迷わないような避難場所の選定を検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室に洗面台があり、口腔ケアや身だしなみ等の個別援助を行いプライバシーの確保を実施している。	各居室に洗面台を設置し、利用者は自由に利用している。介助が必要な場合は、職員が個別支援を実施している。入浴時は羞恥心を考慮し、タオル等で保護したり、ウロバック(蓄尿袋)を装着している利用者には、ウロバックにカバーをつけたりしている。言葉かけなど尊厳を大切に支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伺いながら利用者様がやりたいことができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分を考慮し、一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に聞きながら衣類選んだり、ご希望の方には、白髪染めを行ったりおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	カレーやけんちん汁など作る際、皮むきや味付けをお願いしている。 食べ終わると食器をカウンターまで持ってきて「ご馳走様でした」と片付けてくれる方もいる。	食事は、配食サービスを利用している。利用者が好みのものを要望した時は配食を中止し、希望に沿った支援を行っている。最近では、おはぎとケーキを利用者をつくり、お正月はおせちを配食業者に依頼するなど、節目を大切に季節を感じてもらおう努力を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事・水分の摂取量を記録して健康管理を行っている。栄養状態の悪い人は医師に相談して栄養ドリンクを処方してもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて声かけを行い、必要に応じて介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をとり、排泄のパターンを把握し声かけや誘導を行っている。	夜間は、約半数の利用者がおむつを使用している。定時でトイレ誘導したり、ナースコールで対応したりなど、自立排泄に向けた取り組みが行われている。バルーン挿入の方は、1ヶ月1回訪問看護師が交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	声かけ促し水分を多く取って頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、月・水・金曜日の午後と決まっているが、利用者の状況で午前中に行ったり、入浴日以外の日でも対応はしている。また、入浴時間は一人ひとりの希望に応じて対応している。	入浴は週3回として曜日も設定しているが、その日に入浴できない場合でも、必ず入浴できるよう調整している。一般浴槽だが利用者がゆったりできるように、個浴介助で支援している。温度の高い湯を希望する方もいて、適宜順番を調整している。入浴剤やゆず湯など、好みのものを提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて就寝時間を調整したり、日中、散歩や体操など適度に体を動かして頂き、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をファイルして閲覧できるようにしている。体調に変化等が見られた場合、訪問看護の連絡し医師の指示を仰げるようになっていく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、おしぼり丸め、野菜の皮むきなどお願いしている。食べたい物を伺い、献立に反映させてる。ドライブなどに連れ出し気分転換をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候に合わせて、散歩に出かけている。ご家族様の協力の下、外出に出かけている。	コロナ禍になり以前より外出は少ないが、小菊やコスモスの鑑賞など、季節に合わせてドライブに出かける支援を行っている。自立の人は近隣の公園に散歩に出かけ、外出の機会を利用して夕食をする支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と一緒に買い物に出かけ、洋服を選んだり、食べたい物を選んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が、かけ方を忘れてかけられない時などは操作を一緒に行うなど支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真・観葉植物・花を飾ったり、音楽をかけたりして居心地のよい空間になるよう工夫している。	食堂は感染対策を考慮し、食卓は分散して設置されている。席は家族の意向も確認したり、利用者の相性を考慮したり、トイレが近い方は廊下側にしたり等の配慮がされている。廊下の壁にはドライフラワーが所々に飾られ、利用者のイベントの写真が額に収められて、居心地の良い空間ができています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時々席替えを行い、利用者同士が交流できるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みの家具や布団など持ってきて頂くように努めている。 本人が過ごしやすいようにベッドの配置も検討して決めている。	居室には、使い慣れたタンスや布団、テレビを持参している方もいる。夜間、安全面を考慮してポータブルトイレの設置もある。壁には家族写真が飾られて、家庭の環境に近く、居心地よく過ごせる工夫がされている。表札は分かりやすいように、男性が緑、女性は赤を使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置し、安心して歩行ができるようになっている。 自室は表札をつけ自分の部屋だとわかるようにしている。		